

いわさわ健^{たけし}さんを応援します！

いつも笑顔を決やさないいわさわさんは、どんなことでも市民に寄り添って相談に乗ってくれる頼りがいのある人です。

暮らしの不安を一緒に考えてくれるいわさわさんをぜひ市議会で活躍させてください。

馬場秀幸さん
(弁護士)



コロナ禍の下、業者はたいへんです。政治からの支援がどうしても必要です。

地元の業者の一人として、暮らしの目線で政治を変え、市民の暮らしと営業を守るいわさわさんを心から応援します。

宮崎 陽さん
(元上越民商会長
・看板店経営)



- 1970年妙高市生まれ、50歳。県立有恒高等学校卒。
- 妙高市の建設会社、上越市の設備会社勤務を経て1990年独立
- 1993年設備会社(有)メーキャップサービス創業。
- 1995年から上越市内に飲食店7店舗を展開。
- 1995年「上越民主商工会」に加入。重税反対を貫き、自営業・小企業・フリーランスの商売をサポートする。
- 2011年上越民主商工会副会長就任。
- 2014年新潟県商工団体連合会副会長就任。
- 2019年上越民主商工会・会長就任。
- 現在／飲食店経営、上越民主商工会・会長、日本共産党上越地区委員会暮らし・子育て相談室長
- 趣味／映画鑑賞、音楽、カラオケ、旅行
- 家族／妻1男1女、両親。本町2丁目在住。



- 2019年2月、消費税増税反対の署名を提出。参議院議員会館にて森ゆうこ参院議員と

いわさわ健^{たけし} 日本共産党

国の病院つぶしから
病院と医療を守る

コロナから
暮らしと生業を守る



【発行】日本共産党上越市委員会／上越市五智1-21-12

【連絡先】Tel 025-543-1890 Fax 025-543-1875

2021年号外 日本共産党の見解を紹介します。



今、病院が危ない！

新型コロナで医療がひっ迫しているのに…

「地域医療構想」で病院やベッド数を削減？！

国は、「人口減、高齢化」を理由に急性期の病院やベッドを減らそうとしています。しかし、実際には医療の需要は増えており、ベッドは将来も不足します。

医師を拠点病院に集中？！

救急病院が一部の拠点病院に集約されてしまったら、救急車の行き先がなくなることも。新型コロナなどの感染症流行で、各地の身近な救急病院がますます大切になってきています。

働く市民目線で
上越市政に挑戦します

私たちの「命の砦」である病院をつぶすことは許せません。医師と看護師を増やして、センター病院も労災病院も柿崎病院も守りぬきます。



補償してこそ自粛もできます！

新型コロナ対策で必要なことは…

大規模なPCR検査

迅速なワクチン接種

減収補填の十分な補償

飲食店は減収でもう限界

1回きりの持続化給付金では、経営者だけでなく関連する業者も限界です。十分な補償を求めます。

従業員にも補償を

従業員やアルバイトもたいへん。まず、消費税の減税を！そして2回目の定額給付金を求めます。

医療機関にも補填を

受診抑制による患者の減少や感染防止対策で、市内の医療機関は四苦八苦。減収を補う補填を国まかせにしてはなりません。

新型コロナから市民の暮らしと生業(なりわい)を守ることが、私の使命です。みなさんと力を合わせて、補填や補償を求めます。



居酒屋の
灯を消すな

#コロナ自粛には補償を

SAVE
酒場文化

日本共産党